

## 第 14 回 鎌倉市本庁舎等整備委員会開催結果

### 1 開催方法

書面開催（令和 5 年（2023 年）8 月 4 日～8 月 7 日：意見提出期間）

### 2 意見提出委員

国吉 直行 委員長、川口 和英 副委員長、増井 玲子 委員、酒井 太郎委員、小野田 かおり 委員、西野 奈津子 委員、望月 高明 委員、森安 啓司 委員、渡辺 英昭 委員

### 3 議題

鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画中間取りまとめについて

#### 【委員意見】

No.	意見
1	防災対策を重視したプロジェクトなので、災害があった際にも使っていけるような施設にしてほしい。
2	コンセプトについて概ね良いと思う。手続や相談といった行政機能を維持した上で、コミュニティの場として市民にとって長く愛される施設となることが望ましい。
3	行政サービスについては、しっかり確保した状態で市民交流、コミュニティ的なものが重要な要素である。現在の市役所 1 階で対応している主な手続や相談機能について、オンラインも活用しながら「できない手続はない」状態を目指すことは現庁舎で行政サービスを受けている方々にとっては良い。
4	面積表を見ると明らかに最大規模が図書館のエリアで 2,800 m <sup>2</sup> 、ここに現況の 28 万冊程の蔵書が入った上で、閲覧スペース（静読、会話可能、グループ）、キッズスペース、若者（ヤングアダルト含む）スペース、学習スペース等、調査研究、近代史資料、郷土資料、朗読・録音室、書架などいろいろな機能が調和することになる。図書館機能以外にも、様々ないろいろな機能に応え、なおかつ、地域活動やボランティア、趣味など様々な活動スペースとして 2,400 m <sup>2</sup> を検討されており、平常時と災害時にも対応しようということであるので、そこをどのようにつくっていくのが今後の課題である。 例えばお子さんなどが少し騒いでも楽しく来られるような、家族で来られるような場所はこれからとても大事になる。そういうスペースがありながら、一方で、すでに中央図書館が持っている様々な書籍、あるいは学術的なアカデミックなものなどは少し静音性を要求するものといった

	ようにゾーン分けの十分な検討も必要かと思う。
5	防災対応として現在の庁舎の標高が海拔8 m程かと思うが、南海トラフの話があった時に低層階のものをどういう機能で処理するのか、かなりいろいろなものをここで展開させようとしているので、どのように検討されていくかを今後検討する必要がある。
6	<p>前回委員会資料（7月）によれば床耐荷重のあたりで、現況の建物だと300 kg/m<sup>2</sup>の耐荷重で図書館機能はこれでは足りないということで3段程度だと2,800 m<sup>2</sup>相当が2倍に跳ね上がるので、これが大丈夫なのかという気がする。現況の建物の耐震補強というのはレイアウト自体も限定されていて、図書館機能を乗せるには厳しいのではないかと、この耐震補強自体についてやや疑問に思う。</p> <p>もちろん現況のものを使うとなると有効活用になるが竣工後50年経っているものをさらに持たせるということであるので、かえって高くつく部分もあるのではないかと思う。例えばコアスペース、トイレや階段位置などは今後変えるのかもしれないが、さらに検討するとより狭められると思う。</p>
7	図書館の書架を入れた場合、一般書や学術書のような本は非常に重たいが、お子さんが見るような絵本のようなものは軽い。お子さんが、のびのびとしたスペースで展開できるキッズスペースなどの本は比較的荷重が低く、もう少し重要な本や重たい本についてはむしろ集密書架のようなところに集約して、普段は閉架式にしておき、閉架式と開架式を併用することなども考えていただいた方がよい。
8	重さがかかるということで、風致地区がかかっているのでどれだけ高さを上げていいのかなど検討事項があるが、例えば部分的に盛土をする、一階部分をピロティにしてしまうのか、周密書架を配置するのかなど、そのあたりもパターンをこれから考えていただき、機能がバランスよく入り、なおかつ非常時の機能が両立するようなものを考える必要があると思う。
9	現況の建物を補強して再利用するというのは、しぼりが大きいと思う。一方で新築の場合は、自由度が増す反面、風致地区の高さ制限（10m、おおよそ2階建て）と制約もあり、地震時の津波被害、水没の問題、耐震の問題、本の荷重の問題、いろいろな面を含めるとどれが一番コストパフォーマンス的に良いのか検討して採用していく必要がある。
10	公設公営、公設民営（長期包括運営委託）、公設民営（DBO）民設民営方式（PFI）、リース方式など、整備手法を整理し、メリットデメリットを見極めながら、最適な事業手法を検討していくことが望ましい。

11	表面について、イラストや「とある1日」が具体的なため、「機能・活動（展開）イメージ」とはっきりと書いた方が良いと思う。
12	表面のリード文について「手続きや相談といった行政サービス機能や情報発信機能、鎌倉駅周辺にある公共施設（鎌倉中央図書館、生涯学習センター、NPOセンター）を複合化し～」としてはどうか。何を廃止して複合化するのか、また入っている機能の意味を知る上で必要かと思う。
13	裏面の2「導入機能と施設規模」、3「災害時対応を考えた複合化施設としての利用」が連動していないのがわかりづらく感じる（区分が異なるため）
14	整備手法の項目に、災害リスク対応として耐震補強のほか、浸水リスクにも言及しないと、そもそもの市庁舎移転の必要性が伝わらないと思う。
15	裏面の項目3にある、従来の複合化のイメージ図が付いているが、従来のものとの違いを説明する文言がついていると、さらに検討している新しい施設のあり方が伝わるのではないかと思う。
16	ビジョン～基本理念～の文中で、鎌倉駅周辺にある公共施設（鎌倉中央図書館、生涯学習センター）とありますが、鎌倉駅周辺にある公共施設（鎌倉中央図書館、生涯学習センター、市民活動センター）と市民活動センターを明記してほしい。
17	『ふみくら』で出来ることの「むすぶ」の説明書きで、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の場の提供</li> <li>・活動のネットワーク化</li> <li>・活動に参加するきっかけづくり</li> </ul> とあるが、何の活動なのか曖昧なので、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動の場の提供</li> <li>・市民活動のネットワーク化、コーディネート</li> <li>・市民活動に参加するきっかけづくり</li> </ul> としてほしい。ここを市民活動とすることで、市民活動条例と整合する。
18	『ふみくら』で出来ることの「知恵うむ」の説明書きで、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしを豊かにする新たなサービスやプロジェクトを創出するための支援</li> </ul> とあるが、加えて <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題を解決し、暮らしを豊かにする新たなサービスやプロジェクトを創出するための支援</li> </ul> としてほしい。
19	ふみくらのイメージは公共施設なのか敷地全体を表しているのかあいまいに見える。

20	事業手法について、PFI・リースなどがあるが、地域・自治体との連携も加えてはどうか。
21	民間施設部分の機能について、事業者ヒアリング以外に地域・自治体などにも積極的にヒアリングを行ってはどうか。
22	「導入機能と施設規模」について、施設規模が記載されているが、既存施設との比較が出来ると、より分かりやすい。